

東証プライム : 5262

 **NIPPON HUME**  
日本ヒューム株式会社

# 2024年3月期第2四半期 決算説明会資料

2023年11月14日



# 目次

1. 会社概要
2. 2024年3月期第2四半期業績説明
3. 2024年3月期業績予想
4. 「23-27計画R」における取り組み状況
5. その他トピックス

# 1

## 会社概要

# 日本ヒュームグループの事業概要

- 「社会基盤の整備に参加し、豊かな人間環境づくりに貢献する」を理念とした企業活動
- 連結子会社：8社、持分法適用関連会社：6社を含むグループで社会基盤の整備に貢献

## 下水道関連事業

- ヒューム管、セグメントなどコンクリート製下水道関連製品の製造
- PGF・壁高欄などコンクリート製道路関連製品、その他プレキャストコンクリート製品の製造
- 下水道関連の工事（管渠更生など）

<連結子会社>

- ・ 東邦ヒューム管株式会社
- ・ 日本ヒュームエンジニアリング株式会社

## 太陽光発電・不動産事業

- 不動産の賃貸、管理及び開発
- 発電および売電に関する事業
- 環境関連機器の販売及びメンテナンス

<連結子会社>

- ・ 株式会社環境改善計画
- ・ 株式会社ヒュームズ

## 環境・衛生システム(コンサル)

株式会社環境改善計画

- オゾン脱臭システム
- 環境（空気・水等）の浄化システム
- 環境・衛生コンサルティング

## 基礎事業



パイル施工



パイル製造

## 下水道関連事業



PCウエル



RCセグメント



管更生（3Sセグメント工法）



壁高欄

## 太陽光発電・不動産事業



新橋NHビル



太陽光発電所

## 基礎事業

- コンクリートパイルの製造・販売
- コンクリートパイルの施工
- コンクリート製品用型枠の販売
- コンクリート製品用資材の販売

<連結子会社>

- ・ 技工曙株式会社
- ・ 株式会社エヌエイチ・フタバ
- ・ ニッポンヒュームインターナショナルリミテッド 他海外1社

## 鉄工・鉄筋

技工曙株式会社、株式会社エヌエイチ・フタバ

- 管路用・基礎用製品の型枠、及びその周辺部品

## その他事業

- レンタル事業

# 2

## 2024年3月期第2四半期 業績説明

## ① 連結損益計算書

- 今年度は、前年度の上半期に出荷・工事が集中したことにより前年度同期比では減少となるが、下半期に出荷・工事が集中することにより通期では計画を上回る見込み

(単位：百万円、%)	2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	14,861	100.0	<b>14,340</b>	<b>100.0</b>	<b>△520</b>	<b>△3.5</b>
営業利益	460	3.1	<b>287</b>	<b>2.0</b>	<b>△173</b>	<b>△37.7</b>
経常利益	1,408	9.5	<b>1,114</b>	<b>7.8</b>	<b>△294</b>	<b>△20.9</b>
四半期純利益 (※)	1,187	8.0	<b>1,150</b>	<b>8.0</b>	<b>△37</b>	<b>△3.2</b>
減価償却費	292	—	<b>344</b>	—	<b>+52</b>	<b>+17.8</b>
設備投資	320	—	<b>248</b>	—	<b>△72</b>	<b>△22.6</b>

(※)親会社株主に帰属する四半期純利益

## ② 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2023年3月 期末	2024年3月期 第2四半期末
<b>流動資産</b>	28,933	<b>27,622</b>
(現金及び預金)	12,462	12,686
(棚卸資産)	4,115	4,502
<b>固定資産</b>	26,045	<b>27,463</b>
(有形固定資産)	9,460	9,341
(無形固定資産)	190	188
(投資その他の資産)	16,395	17,933
<b>資産合計</b>	54,979	<b>55,085</b>

(単位：百万円)	2023年3月 期末	2024年3月期 第2四半期末
<b>流動負債</b>	12,939	<b>11,389</b>
(短期借入金)	1,070	1,116
<b>固定負債</b>	3,839	4,205
<b>負債合計</b>	16,778	<b>15,594</b>
<b>株主資本</b>	36,591	37,117
(自己株式)	△2,574	△2,659
<b>純資産合計</b>	38,201	39,491
<b>負債・純資産合計</b>	54,979	<b>55,085</b>

### ③ 2024年3月期第2四半期業績総括（連結）

- 基礎事業では、売価改善と関東・東北地区の受注増により増益
- 下水道関連事業は、前年度は上半期に出荷・工事が集中し、今年度は下半期に出荷・工事が集中する見込み

【売上高】 連結売上高 14,340百万円 前期比△520百万円 △3.5%

基礎事業	9,405百万円	△ 11百万円 △ 0.1%	● 全体需要減少も関東・東北地区の受注増により売上高を維持
下水道関連事業	4,137百万円	△ 553百万円 △ 11.8%	● 前半期は減収も後半期回復の見込み
太陽光発電・不動産事業	771百万円	+ 38百万円 + 5.3%	
その他事業	26百万円	+ 5百万円 + 28.1%	

【営業利益】 連結営業利益 287百万円 前期比△173百万円 △37.7%

基礎事業	326百万円	+ 128百万円 + 65.2%	● 売価改善が進んだことによる大幅増益
下水道関連事業	441百万円	△ 193百万円 △ 30.5%	● 前半期は需要減による減益も後半期回復の見込み
太陽光発電・不動産事業	426百万円	+ 0百万円 + 0.1%	
その他事業	19百万円	+ 4百万円 + 31.7%	

(注) 営業利益には、調整額△926百万円は含まれておりません。



# 3

## 2024年3月期業績予想

# 2024年3月期業績予想

- 今年度は下半期に出荷・工事が集中
- 基礎事業：下半期に大型下水処理施設、大型工場向けの出荷・工事を予定
- 下水道関連事業：下半期に官庁土木工事向けの出荷・工事が増加する予定



## 売上高は計画通り、経常利益・当期純利益は計画を上回る見通し

(単位：百万円、%)

	2023年3月期		2024年3月期予想			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	31,876	100.0	32,300	100.0	+424	+1.3
営業利益	1,236	3.9	1,300	4.0	+64	+5.2
経常利益	2,102	6.6	2,150	6.7	+48	+2.3
当期純利益(※)	1,642	5.2	1,650	5.1	+8	+0.5

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

# 4

## 「23-27計画R」における取り組み状況

# 4-1

## 部門別戦略

# 事業戦略200年企業の基盤構築（構造改革）の進捗

2024年3月期第2四半期までの進捗

## 営業部門

### ➤ 組織営業体制の強化

- ① 技術営業体制の構築
- ② 営業活動の全社バックアップ

### ➤ 情報化武装強化

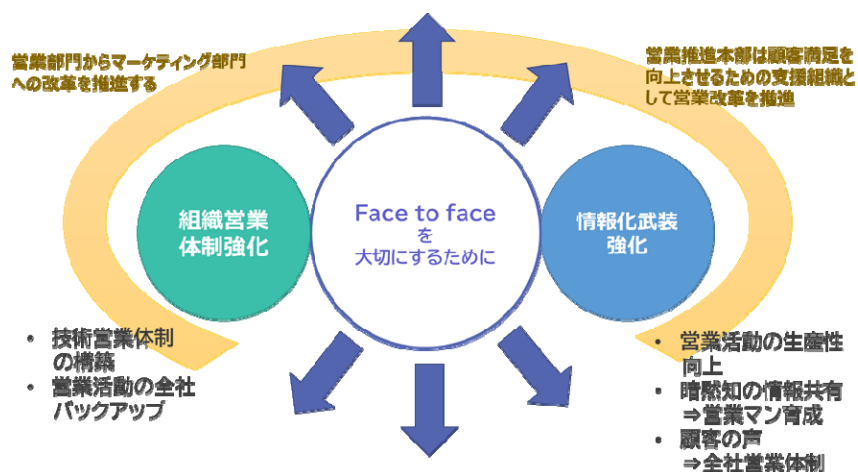
- ① 営業活動の生産性向上
- ② 暗黙知の情報共有（営業マン育成）
- ③ 顧客の声（全社営業体制）

⇒営業部門からマーケティング部門への新化

⇒営業推進本部による営業改革

## 『23-27計画R』営業戦略

組織営業体制強化、情報化武装により顧客接点を強化し、事業拡大を目指す



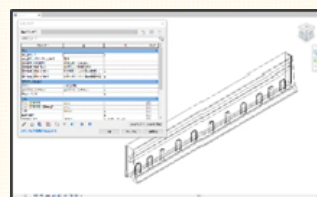
### □ 技術部門にPCa設計センター設置

⇒本社による支社への設計サポート

- ① 従来は属人的対応⇒17件実施（組織的対応）
- ② 技術研修会を9回実施（5支社4工場）

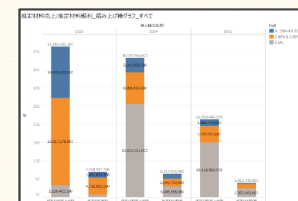
### □ BIM/CIM図形要素提供による受注機会の拡大

- ① BIM：『i-部品get』で2件/月の利用があり、営業活動に結びついている
- ② CIM：PCウェル工法（ケーソン基礎）『Revit』によるCIMを提供する事で差別化を図る



### □ 顧客管理システムによる受注拡大

- ① 予材管理の導入⇒精度向上/一元管理
  - ② 人脈情報の共有⇒人脈管理システム
  - ③ 顧客の声⇒DB化及び事業開発
  - ④ 営業活動の共有⇒営業マン育成
- ⇒予材量20%UP（前期比）



# 事業戦略200年企業の基盤構築（構造改革）の進捗

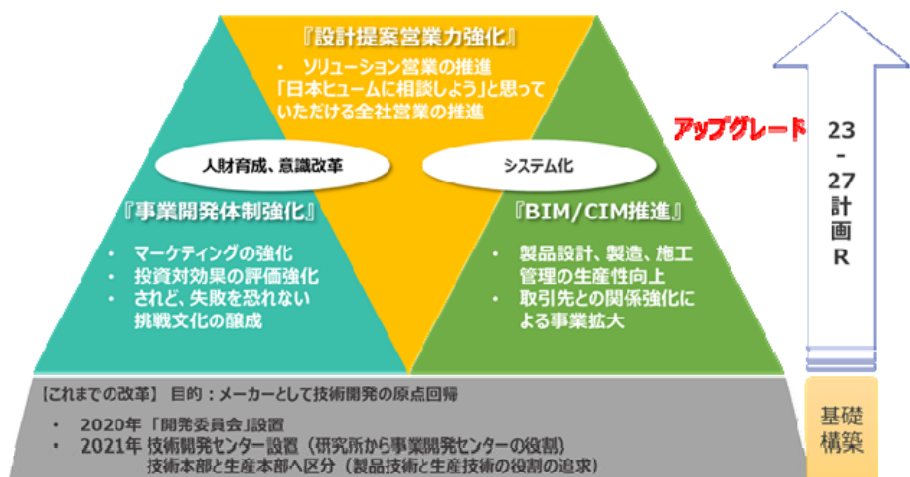
2024年3月期第2四半期までの進捗

## 技術部門

- 設計提案営業力強化
  - ①ソリューション営業の推進
- 事業開発体制強化
  - ①マーケティングの強化
  - ②投資対効果の評価強化
  - ③失敗を恐れない挑戦文化の醸成
- BIM/CIM推進
  - ①製品設計、製造、施工管理の生産性向上
  - ②取引先との関係強化による事業拡大

## 『23-27計画R』技術戦略

技術経営の推進 -「技術は営業に責任をもつ」意識改革と事業創出-



- PCウェル工法の設計ソフト改良
  - ⇒当社の独自のプレキャスト製品であるPCウェル工法（ケーソン基礎）の設計ソフト改良に着手（2024年2月完成予定）



⇒設計のスピードアップを図る事で設計件数は、8件/年(従来2件/年)に、設計時間は従前より1/6に短縮される見込み

- BIM/CIM推進の取組み
  - ⇒BIM/CIM推進室にて、製品の3DCADモデル(i-部品Get)等の必要なデータ化は20%完了（2024年9月完了予定）
  - ⇒PCウェル工法のCIMへのデータ化完了

- 『ポンプ場の更新』実施
  - ⇒下水処理場・ポンプ場の老朽化の改築更新、維持管理において、流入水路の堰止めが課題



⇒水中施工によるプレキャストコンクリート製隔壁の設置を提案し採用

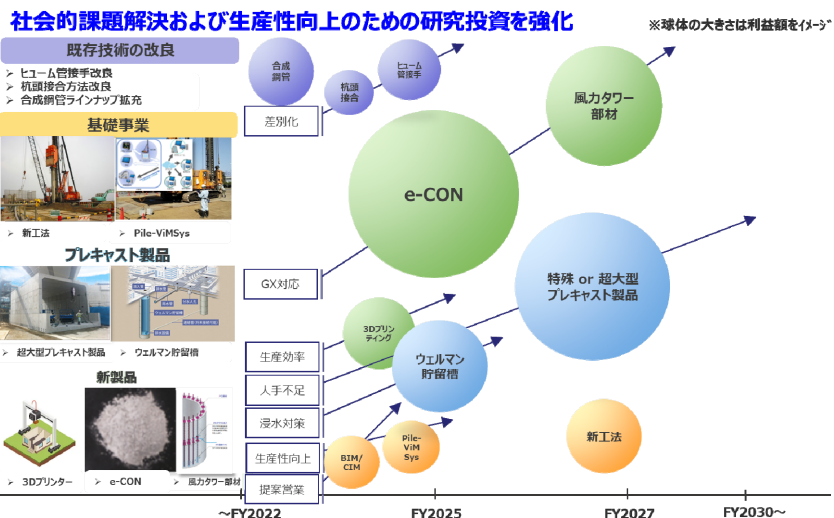
# 事業戦略200年企業の基盤構築（構造改革）の進捗

2024年3月期第2四半期までの進捗

## 技術開発投資

- 既存技術の改良  
地震時人孔側塊目地ずれシート工法、杭頭処理 他
- 基礎事業  
新工法・Pile-ViMSys 他
- プレキャスト製品  
超大型プレキャスト、ウエルマン貯留槽 他
- 新製品  
3Dプリンター、e-CON、風カタワー部材 他

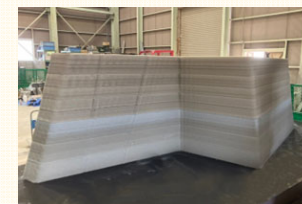
## 『23-27計画R』技術開発投資



- 杭頭処理
  - ⇒ 進捗率 50%（2024年9月完了予定）
  - ⇒ 杭頭処理作業 90%削減

- 杭新工法
  - ⇒ 進捗率35%（2024年9月完了予定）

- 3Dプリンター
  - ⇒ 実用化に成功し、熊谷工場にて実製品の製造・出荷を実施



- 地震時人孔側塊目地ずれシート工法
  - ⇒ 震災時の液状化により下水道管

に土砂が堆積する被害が発生



- ⇒ その要因となった人孔側塊の目地部のずれを抑制し、土砂流入を防止

# 事業戦略200年企業の基盤構築（構造改革）の進捗

2024年3月期第2四半期までの進捗

## 生産部門

### ➤ 設備投資

- ① 環境材料 e-CON対応設備
- ② カーボンニュートラル対応

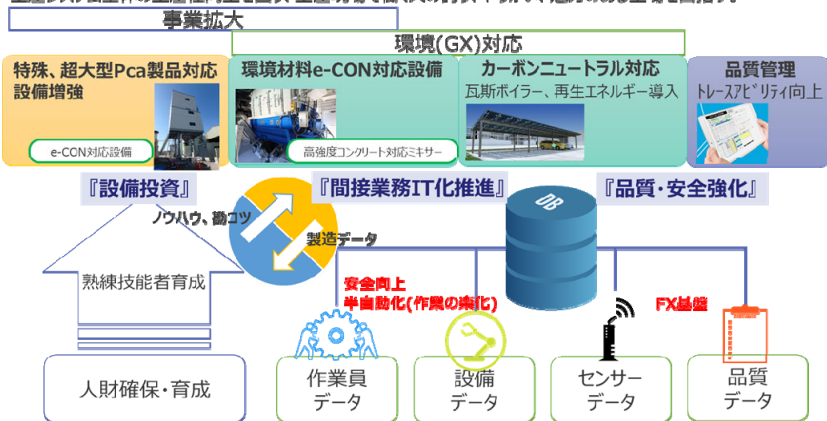
### ➤ 間接業務IT化推進

### ➤ 品質・安全強化

- ① 設備及び品質管理システムの導入

## 『23-27計画R』生産部門

※FX：factory transformation、環境対応、人口減少などに対応した工場を意味する  
**社会基盤を支える製品工場として、事業環境に対応したFXの基盤構築を目指す**  
 コンクリート製品工場は、場所が固定した建設現場と言える。一足飛びの完全なオートメーションは時期尚早だが、生産システム全体の生産性向上を図り、生産現場で働く人の誇り、やりがい、魅力のある工場を目指す。



- 『温室効果ガス削減施策』によるガスボイラーの導入（2024年1月完工予定）

⇒カーボンニュートラル対応の一環として

CO2排出量を削減（熊谷工場でCO2排出量を30%削減（2021年度比））

- 設備及び品質管理システムの導入

⇒能率向上及びトレスアビリティ向上

⇒設備管理、品質管理強化



- 設備投資

- ・熊谷工場：SC杭(外殻鋼管付コンクリート杭)ラインのコンクリート配給効率を約12%改善し、18時間/月の時間短縮(生産効率向上)によるコスト競争力の向上

- ・九州工場：ヒューム管ラインのコンクリート投入効率を約16%改善し、24時間/月の時間短縮（生産効率向上）によるコスト競争力の向上



ヒューム管投入ライン



# 事業戦略200年企業の基盤構築（構造改革）の進捗

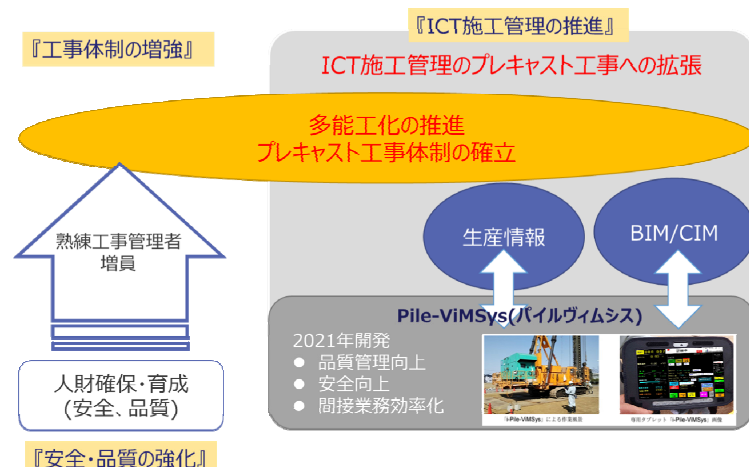
2024年3月期第2四半期までの進捗

## 工事部門

- 安全・品質の強化
  - ① 人財育成、安全研修の充実
  - ② 安全パトロールの増加
- 工事体制の強化
  - ① 採用強化
  - ② 多能工化の推進とプレキャスト工事体制確立
- ICT施工管理の推進
  - ① ICT施工管理装置のプレキャスト工事への拡張

## 『23-27計画R』工事戦略

「品質と安全」「体制」を強化することで、選ばれる工事を目指す



## □ 安全・品質の強化

- ① 社長による現場安全パトロールの実施
- ② 事例から学ぶ安全研修として『安全の部屋』開設



## □ 工事体制の強化

- ① 現場管理者を3名増員
- ② 各支社にプレキャスト工事担当者を2名専任

## □ ICT施工管理の推進

- ① 工事写真アプリ『ViMSys Camera』で信憑性確認検定を取得し公共機関での利用が可能になった
- ② プレキャスト工事での『ViMSys Camera』使用に向けたシステム開発開始



# 事業戦略200年企業の基盤構築（構造改革）の進捗

2024年3月期第2四半期までの進捗

## 管理部門

### 人財戦略強化

① トップによる組織・企業文化の「継承と新化」

② 新人事制度

### IT戦略強化

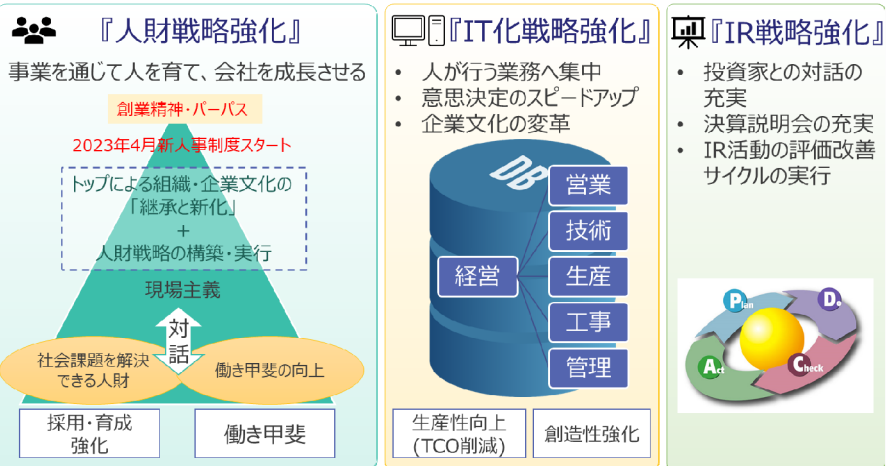
① システム導入支援

### IR戦略強化

① 投資家との対話の充実

## 『23-27計画R』管理戦略

人財戦略、デジタル化、IR強化を通じて企業価値の向上を目指す



### □ トップによる社内SNS「Mtimes」配信

⇒全社員に対し、考え方や取組みを毎日配信

⇒4月から開始した新人事制度の定着の取組み

・ 人事委員会設置

・ HR強化の為の人材採用

### □ IT戦略強化

① 工場の設備管理システム導入支援

⇒予防保全および適切な設備投資の進捗管理によりTCOの削減を目指す

② 工場の品質管理システム導入支援

⇒トレサビリティ向上、品質向上によるTCO削減を目指す

③ 工事のViMSysCameraシステム導入支援

### □ IR戦略強化

⇒IR面談の充実 今年度11件（前年度4件）

# 4-2

## 事業セグメント別戦略

# 基礎事業①

## 重点施策「基礎事業の採算改善と安定化」「デジタル化によるトランスフォーメーション」

### 対処すべき課題(※)

### 2023年度上半期での取組内容と成果

#### ➤ 建設従事者不足

- 施工管理者3名増員
- 各支社にプレキャスト工事担当者を2名専任

#### ➤ 営業利益向上策

- 丁寧な価格改善活動により、売価改善を実施  
営業利益率は前期2.0%から当期には3.4%へと改善

#### ➤ 中堀工法の拡大 ➤ 新工法開発

- 新工法は24年9月完了予定
- 環境対策をPRし拡販を狙う

#### 新工法開発

近年、超高強度コンクリート杭を必要とする案件数が増えてきており、杭の性能を最大限活用する



写真はイメージ

※（参考）CO2排出量当社調べ

新規工法	既存工法	他社工法
65%	88%	100%

上記は他社工法を100%としCO2の総排出量を比較しております。

## 基礎事業②

### 重点施策「基礎事業の採算改善と安定化」「デジタル化によるトランスフォーメーション」

#### 対処すべき課題

#### 2023年度上半期での取組内容と成果

#### ▶ 大型案件の受注確率向上

- SFA（顧客管理システム）による予材管理
- 組織営業担当により精度上げる

#### ▶ ICTツールの更なる改良

- ViMSys Cameraの開発及び導入

#### ViMSys Camera（ヴィムシスカメラ）

施工管理ソフトウェア産業協会（J-COMSIA）の提供する信憑性確認（改ざん検知機能）検定の認定により、国土交通省をはじめとした公共機関において、改ざん防止された電子黒板付き工事写真の利用が可能となった。

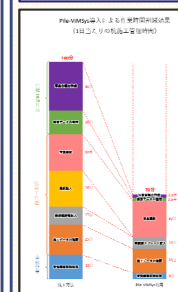
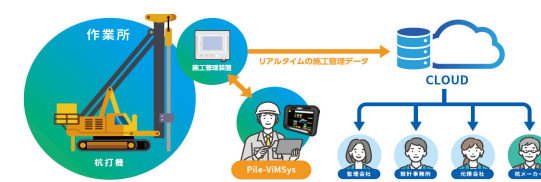


杭施工現場で使用

**プレキャスト工事への適用範囲を拡大予定**  
(来年度以降)

#### Pile-ViMSys® (パイルヴィムシス)

ICT施工管理の活用による現場施工効率の向上



#### 2024問題対策

**現場作業時間  
61%削減**

# 下水道事業①

## 重点施策「創業以来の下水道事業のトータルソリューション増強」

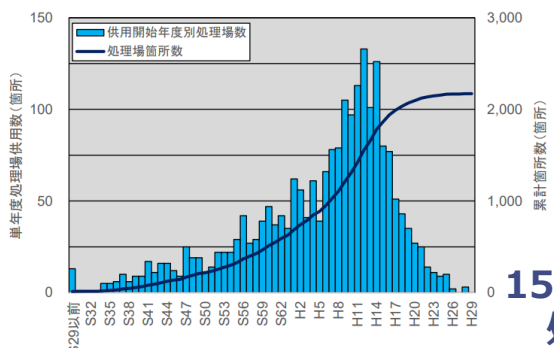
### 対処すべき課題

### 2023年度上半期での取組内容と成果

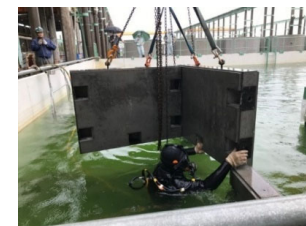
#### ➤ インフラ老朽化対策 (事業領域拡大)

#### ● ポンプ場更新ソリューション

多くの下水処理場が老朽化しており改築更新及び維持管理が急務だが、メンテナンス中の空水化に課題



課題を解決するために、  
水中施工によるプレキャスト  
コンクリート製隔壁の設置を  
設計提案



15年経過の  
処理場  
約2000箇所

#### ➤ ヒューム管シェアNo.1更に ダントツ化

● ヒューム管シェアは、前年同期比15.3%から18.6%に拡大

#### ➤ 下水道工事の提供エリア 拡大

● 現在3県への拡大に向け活動中

## 下水道事業②

### 重点施策「創業以来の下水道事業のトータルソリューション増強」

#### 対処すべき課題

#### ➤ 脱炭素コンクリートの対応

#### 2023年度上半期での取組内容と成果

##### • 『e-CON®』

- ①公的認定：2023年内に申請予定
- ②実績：地方自治体 耐酸性マンホール  
民間 ヒューム管・マンホール
- ③将来性：耐塩害性の特性を活かし、**港湾事業へ展開**  
地場材料を活用した**地産地消ビジネスモデル**へ



ヒューム管



マンホール



国土交通省で、低炭素  
素材として「e-CON」が  
**海洋構造物に採用**

##### e-CONパウダー構成材料



高炉スラ  
グ粉末体



フライ  
アッシュ



その他のリサイクル材料

**地場材料**

今後、公的機関・自治体との共同研究による標準化を図り  
**低炭素コンクリートNo.1を目指す**

# プレキャスト事業①

重点施策「プレキャスト製品事業の増強」「コンクリート製品テクノロジーによる高付加価値製品の増強」

## 対処すべき課題

## 2023年度上半期での取組内容と成果

### ➤ プレキャスト製品事業の強化

- ・国土交通省では「i-Construction」の推進を打ち出し、その中でコンクリート工の生産性向上を進めるための一つの方策として、プレキャスト製品の規格化などの検討が進んでいる。
- ・VFM (Value for Money) 評価により、建設現場における大型プレキャストの導入が促進

VFM評価方式により北海道で  
取水渠のプレキャスト化採用



【大型ボックスカルバート】

### ➤ PCウェルの拡販

- ・道路事業から「鉄道」、「モノレール」など用途の拡大を図り、広島駅ペDESTリアンデッキでの継続採用、大阪モノレール延伸事業での新規採用
- ・設計のスピードアップ化のため『PCウェル工法の設計ソフト』改良に着手



【PCウェル施工写真】



## プレキャスト事業②

重点施策「プレキャスト製品事業の増強」「コンクリート製品テクノロジーによる高付加価値製品の増強」

### 対処すべき課題

### 2023年度上半期での取組内容と成果

#### ➤ PCa壁高欄の拡販

- ・関東・東北地区を中心に  
売上高は、前期比**2.6倍**



- ・今後販売地域の拡大、更なる  
売上増加を目指す



【プレキャスト壁高欄】

#### ➤ 3Dプリンターの導入

- ・3Dプリンターによる実製品の製造を開始

◆当社熊谷工場にて**3Dプリンターによる実製品の製造・出荷**を実施いたしました。

- ・3Dプリンティング技術を活用した工場の省人化
- ・様々な形状の製品製造を可能とし、プレキャスト事業のソリューションを実現する。



【3Dプリンターによる製品】



【出荷状況】

# プレキャスト事業③

重点施策「プレキャスト製品事業の増強」「コンクリート製品テクノロジーによる高付加価値製品の増強」

## 対処すべき課題

## 2023年度上半期での取組内容と成果

### ➤ BIM/CIM

- ・ BIM/CIM図形要素提供による受注機会の拡大
  - ①BIM：『i-部品get』で2件/月の利用があり、営業活動に結びついている
  - ②CIM：PCウエル工法（ケーソン基礎）『Revit』によるCIMを提供する事で差別化を図る



### ➤ PCa製造体制の強化

- ・熊谷工場 プレキャスト製品プラント稼働開始
- ・プレキャスト製品大型化や環境配慮型製品の対応強化



骨材コルゲートサイロ 5基  
セメントサイロ 6基



**製造能力大幅UP  
(40t/日の増加)**

4-3

## ESG戦略

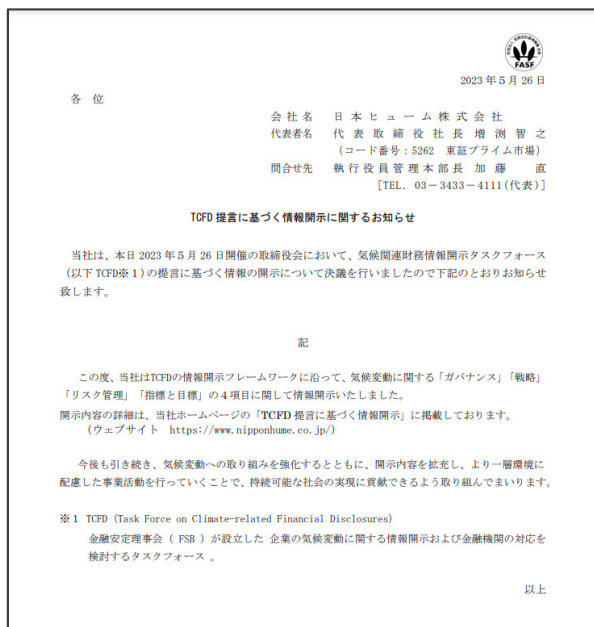
# ESG戦略 (E: 環境)

- TCFD提言に基づく情報を開示しました (2023年5月26日)
- CO2削減への取組み

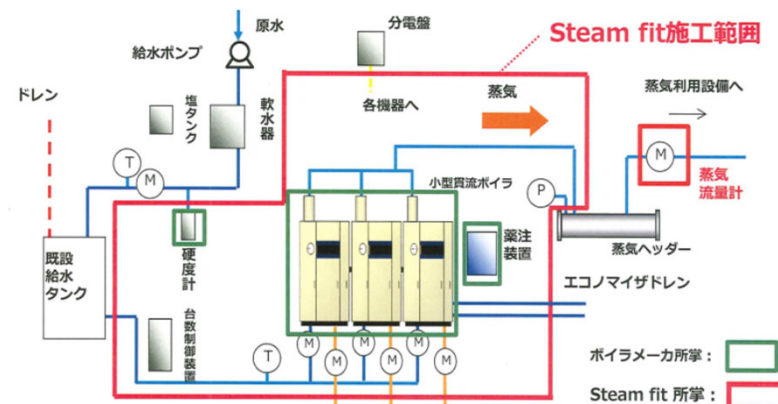
## TCFD提言に基づく情報開示

### TCFD提言に基づく情報について開示いたしました

気候変動への対応を重要な経営課題の一つと捉え、企業理念の一つである「豊かな人間環境づくり」に基づき、本課題に取り組んでいます。



## 温室効果ガス削減施策



- ガスボイラーへの入替によりCO2排出量を削減
- 最新式ボイラー設備導入により省エネ化
- エネルギー使用量見える化

2024年より稼働開始

熊谷工場でCO2排出量を30%削減  
(2021年度比)

2~3年を目途に全工場を更新を予定  
【58%削減予定】

# ESG戦略 (S : 社会)

## ➤ 激甚化する雨水浸水

⇒流域治水オフィシャルサポーターに認定

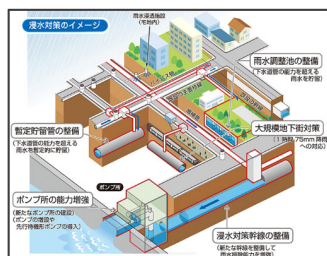
⇒流域治水について講義を実施

### 流域治水オフィシャルサポーター

国土交通省から、水災害対策を進める企業として、「**流域治水オフィシャルサポーター**」に認定されました。当社は様々な、水災害対策に取り組んでいます。

〔取り組み事例〕

- ①PCウェルによる大断面雨水分水マンホール
- ②組立式超大径分割推進管での雨水管構築
- ③プレキャスト遊水地での地下貯留
- ④プレキャストブロックによる非常用洪水吐き水路の構築 など



【出典：国土交通省ホームページ】



### 流域治水の大切さについて講義を実施

浅野工学専門学校でのコンクリートに関する講座にて、浸水対策用コンクリート製品・施工をテーマに、流域治水の大切さを将来の技術者に伝えています。

また、講義を通じて学生との交流を深めています。

年間：2科目（コンクリート、コンクリート製品）  
1科目あたり15回の講義を実施



4-4

## 財務戦略

# 財務戦略（資本政策）

- 株主優待制度新設（2023年9月末より対象）
- 適合計画進捗状況

## 株主優待制度新設

### 株主優待制度新設

『日本ヒューム・プレミアム優待倶楽部』

- ・株主様への還元及び流動性の向上
- ・株主様との対話強化及び促進

毎年9月末及び3月末日現在の当社株主名簿に記載又は記録された600株以上保有の株主様が対象とし、ポイントを進呈。ポイント数に応じた株主優待を受け取ることができます。

### 総合利回り（配当+優待）

配当利回り：2.87%

優待利回り：1.91%

総合利回り：2.87%+1.91%= **約5%**

※1株871円（2023/9/30）、600株保有で想定した場合

**高利回りを実現！**

**約5%**

『日本ヒューム・プレミアム優待倶楽部』概要：

【URL】 <https://nipponhume.premiumyutaiclub.jp/>

## 適合計画進捗状況

1日平均売買代金の状況

2022年12月31日時点 15百万円（<20百万円）



2023年5月11日

新中計『23-27計画R』策定

- ・企業価値の更なる向上
- ・充実した株主還元、資本政策

2023年10月31日時点 **28百万円**（※）

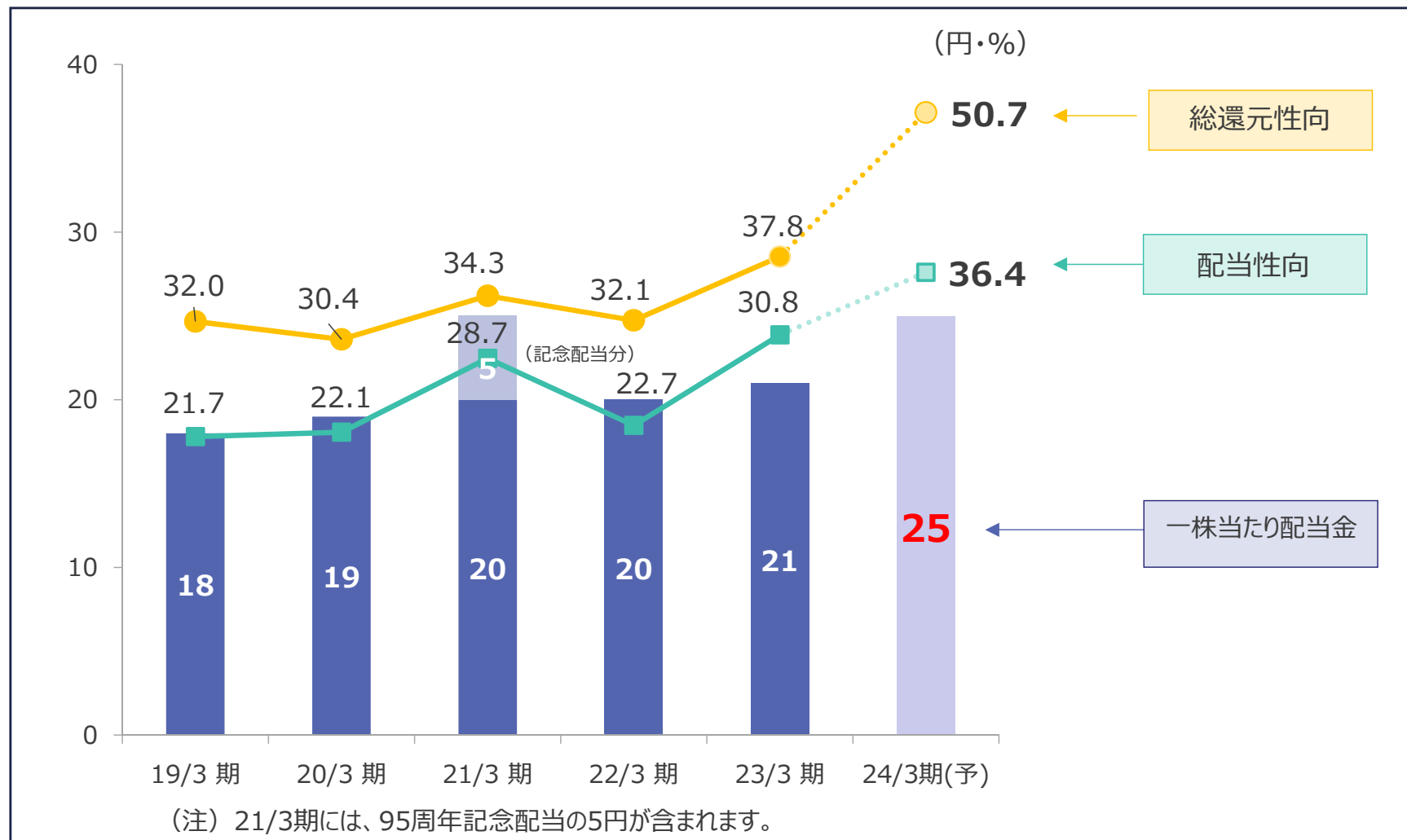
2023年10月時点では上場維持基準を満たしておりますが、引き続き企業価値と株主還元の更なる向上のために『23-27計画R』を着実に実施して参ります。

（※）当社が独自に算出を行ったものになります。

# 財務戦略（株主還元）

## ➤ 安定的株主還元の向上

- ✓ 前期比**4円増配**の**25円**を予定
- ✓ 自己株式の取得（上限：2億円 23.5万株）





# 5

## その他トピックス

## その他トピックス

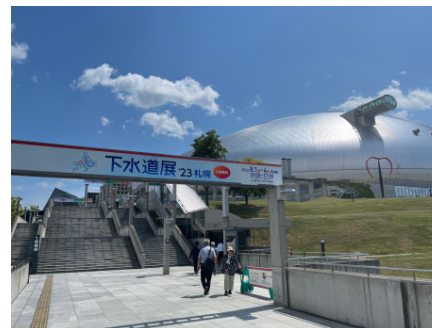
### 下水道展'23札幌に出展

「脱炭素」、「都市防水」、「下水道施設の防食」、「省人化」など下水道分野、建設業界を取り巻く課題を解決する製品や工法をPRしました。

期 間 : 2023年8月1日～4日

会 場 : 札幌ドーム

P R 製 品 : e-CON、ウェルマン貯留槽®、P C ウェル、壁高欄  
合成鋼管、セグメントほか



### 第17回ミリタリーエンジニアリングテクノフェアに出展

防衛施設に関する新技術を展示する当フェアにて当社の製品・工法が防衛施設に有効であることをPRしました。

開 催 日 : 2023年9月6日

会 場 : ホテルグランドヒル市ヶ谷

P R 製 品 : e-CON®、フロートレス工法、ガリガリ君、ボンドくん



## その他トピックス

### 研究成果の学会における発表



「令和5年度土木学会全国大会 第78回年次学術講演会」

開催期間：2023年9月14～15日

開催場所：広島大学 広島工業大学

発表内容：AIを活用したスランプ予測技術の活用

3Dプリンタとロボットを用いたPCa製品の自動製造

新型雨水貯留・浸透施設の開発 等

### 採用活動（学内セミナーに参加）

学内セミナーにて会社説明を実施。

開催日：2023年5月16日

会場：日本大学生産工学部  
津田沼キャンパス



### 土木技術者女性の会

土木技術者女性の会は、女性土木技術者が働きやすい環境作りや女性技術者の社会的評価の向上を主眼に活動している団体になります。当社は2022年3月より、サポーター会員となっています。

シンポジウムや現場見学会などに参加しています。



### 【将来に関する記述等について】

本資料は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

今後、実際の業績は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

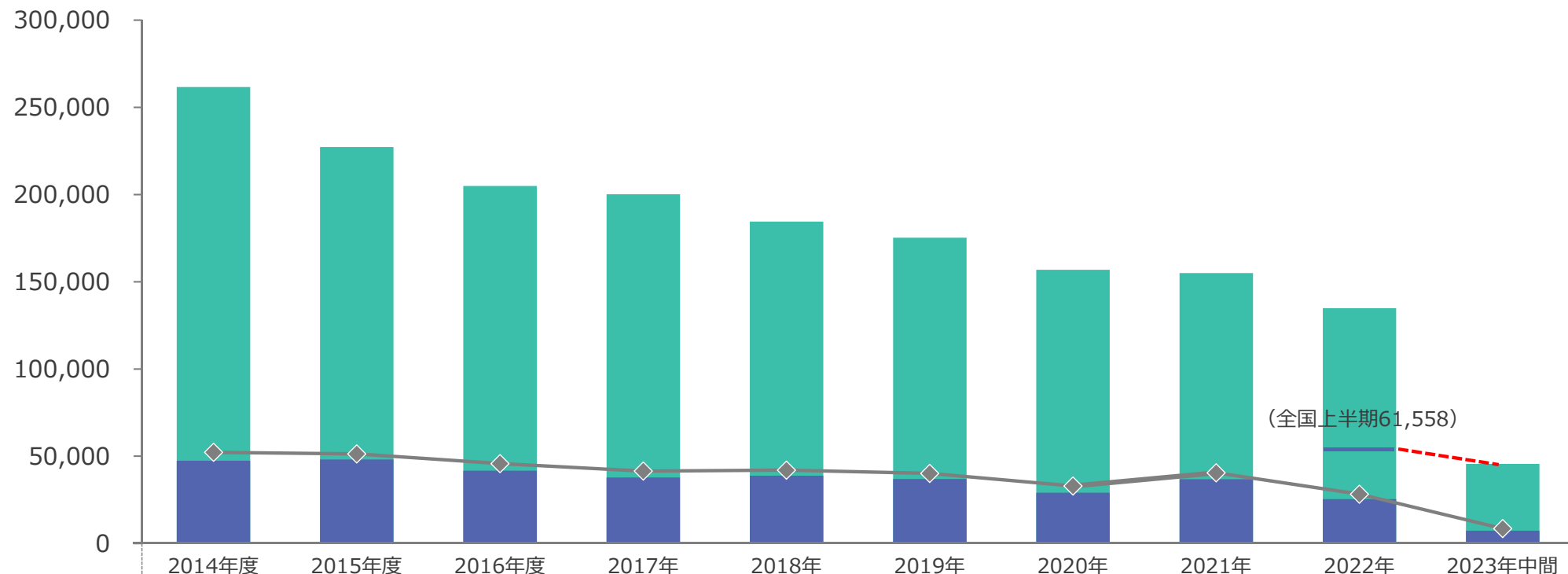
### 【数値表記について】

百万円未満は切り捨てで表示しております。そのため、一部合計数値が一致しないところがございます。

# 参考資料

# 業界データ（下水道関連事業）：ヒューム管需要推移

(単位：ton)

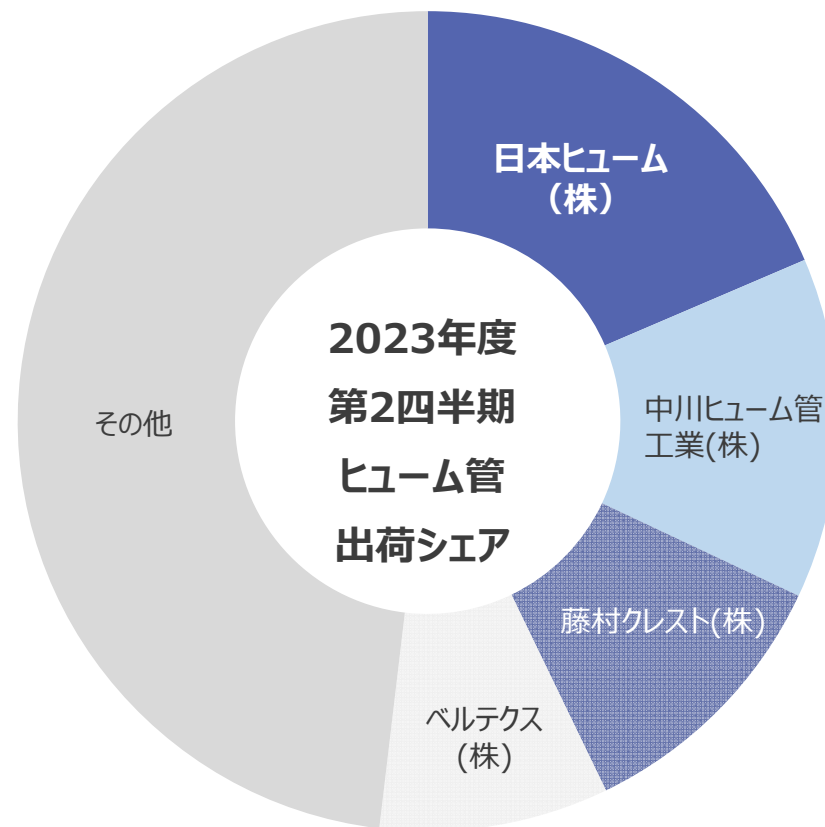


	2014年度	2015年度	2016年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年中間
■ 全国	261,630	227,203	204,896	200,138	184,450	175,235	156,840	154,962	134,820	45,646
■ 日本ヒューム	47,440	48,143	41,716	37,864	38,818	36,941	29,071	36,862	25,398	7,318
◆ 日本ヒュームGr	52,219	51,315	45,747	41,480	42,023	40,148	32,914	40,474	28,219	8,476
日本ヒュームGrシェア率	20.0%	22.6%	22.3%	20.7%	22.8%	22.9%	21.0%	26.1%	20.9%	18.6%

(出典：全国ヒューム管協会資料より算出)

# 業界データ（下水道関連事業）：2023年度第2四半期ヒューム管出荷実績

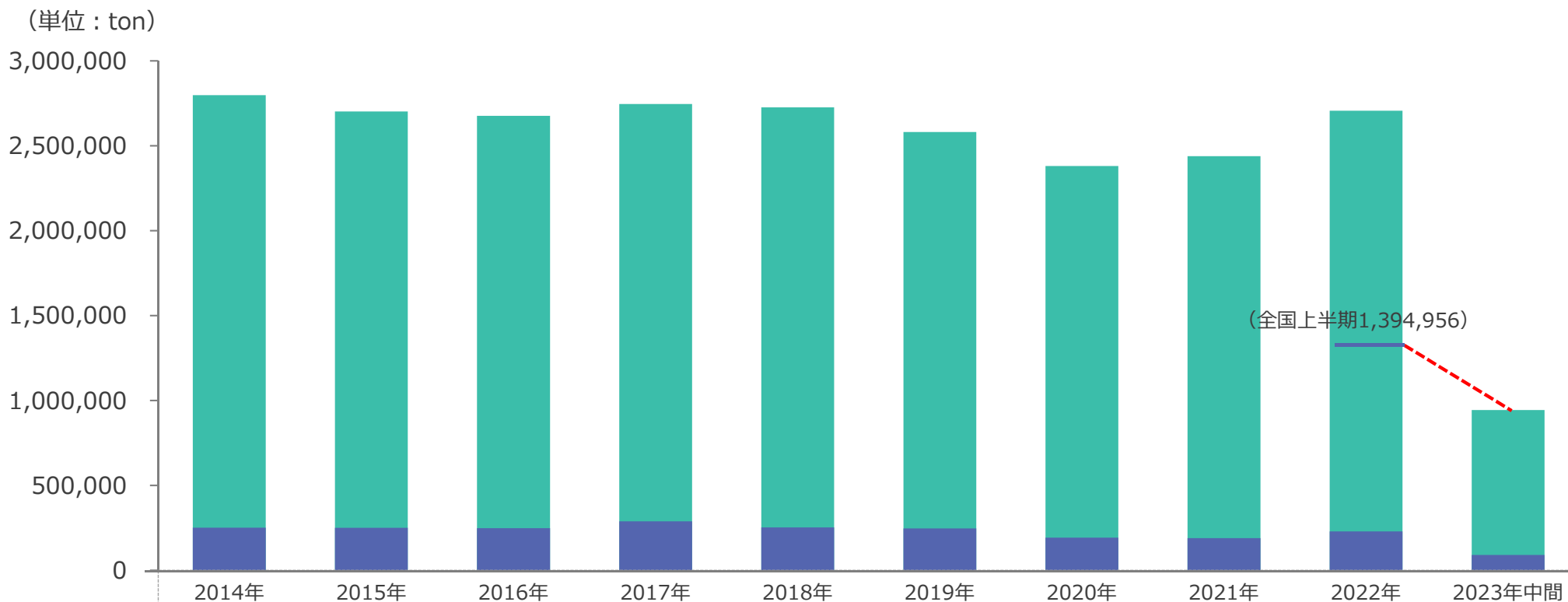
会社名	出荷量 (ton)	シェア	前年同期比
1 日本ヒューム(株)	8,476	18.6%	+3.3%
2 中川ヒューム管工業(株)	6,133	13.4%	-3.4%
3 藤村クレスト(株)	4,944	10.8%	-3.5%
4 ベルテクス(株)	4,130	9.0%	+0.6%
その他	21,963	48.2%	+3.0%
合計	45,646	-	-



※日本ヒューム(株)の数値は、持分法適用会社である  
東京コンクリート工業(株)（株式40%保有）の数値を含みます

（出典：全国ヒューム管協会資料より算出）

# 業界データ（基礎事業）：パイル需要推移



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年中間
■ 全国	2,797,478	2,701,738	2,675,843	2,745,409	2,726,033	2,580,858	2,380,428	2,438,730	2,705,861	944,235
■ 日本ヒューム	251,255	250,863	248,664	288,546	252,593	247,122	192,720	189,997	229,118	90,418
日本ヒュームシェア率	9.0%	9.3%	9.3%	10.5%	9.3%	9.6%	8.1%	7.8%	8.5%	9.6%

(注) 2023年中間数値には、日本コンクリート工業(株)の数値は含まれておりません

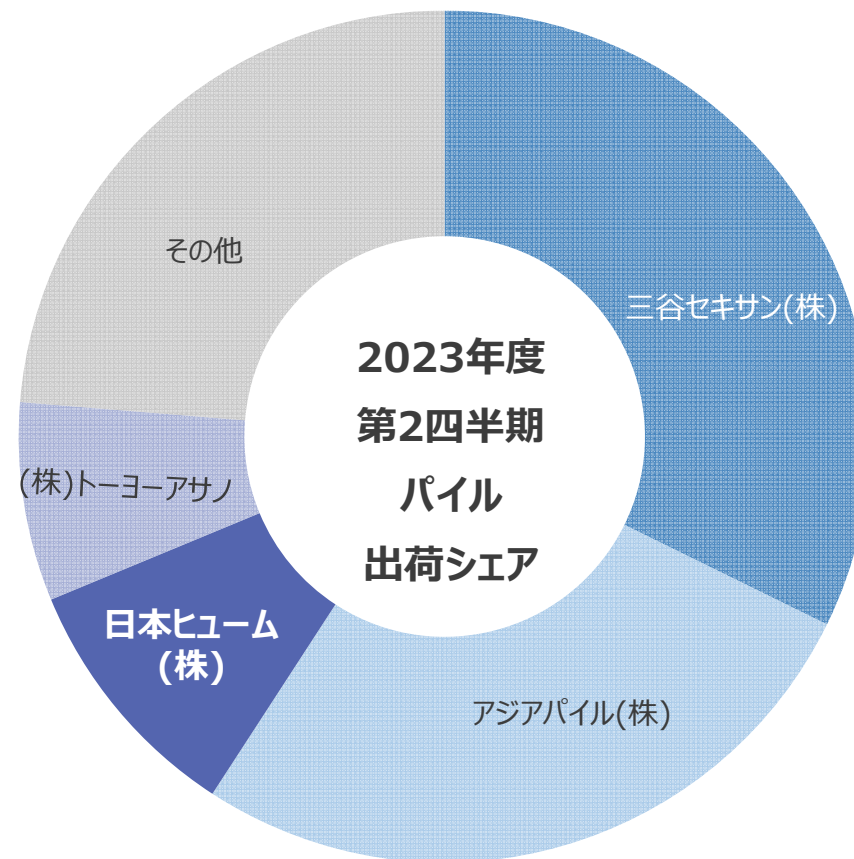
(出典：コンクリートパイル・ポール協会資料より算出)



# 業界データ（基礎事業）：2023年度第2四半期パイル出荷実績

会社名	出荷量 (ton)	シェア	前年同期比
1 三谷セキサン(株)	304,667	32.3%	+2.4%
2 アジアパイル(株)	254,089	26.9%	-0.8%
3 日本ヒューム(株)	<b>90,418</b>	<b>9.6%</b>	<b>+2.4%</b>
4 (株)トーヨーアサノ	71,172	7.5%	+1.3%
5 前田製管(株)	60,608	6.4%	+3.5%
6 マナック(株)	26,753	2.8%	-0.3%
7 日本高圧コンクリート(株)	18,219	1.9%	0.0%
日本コンクリート工業(株)	-	-	-
その他	118,309	12.6%	+1.1%
合計	944,235	-	-

(注) 上記数値には、日本コンクリート工業(株)の数値は含まれておりません



(出典：コンクリートパイル・ポール協会資料より算出)